
その背中には羽根がある

ぺぎょ(・ω・)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

その背中には羽根がある

【Nコード】

N5697S

【作者名】

ぺぎょ（・ω・）

【あらすじ】

僕はずっと一緒だと思ってた。
由夏はずっとそばにいてくれると・・・。

日常の中にいきなり入り込んできた闇が僕らの全てを変えてしまった。

きっと君を救ってみせるから。

シリアス純愛ファンタジー「その背中には羽根がある」

プロローグ

大きな坂を毎日越えて、

僕と由夏は学校へ向かう。

そんな普通の日々に、

その時僕はとてつもなく感謝した。

僕は新谷涼斗。

高校3年生だ。

僕には自慢の彼女がいる。

飯田由夏。

クラスのマドンナだ。

僕と由夏はもう2年付き合っている。

1年の夏に僕らは付き合い始めた。

そして毎日一緒に登校している。

僕らの通う筈川東高校は大きな坂の上にある。

これを越えるのは自転車では無理なくらいで、夏は地獄だ。

そんな登校時間も由夏が居れば幸せだった。

そう思えたんだ。

「すすくん、待った？ごめんね。」

由夏が走っていつもの待ち合わせ場所に来た。

「全然大丈夫だよ。ほら、行こうか。」

いつも約束の10分前には由夏も僕もこの場所に来る。

これが日課だった。

「すすくん昨日のあの番組見た？」

「えっ？月曜日ってなんかやってたっけ？」

「深夜アニメだよー！！魔法少女エリーゼ！！あれはぜったい見なきゃだつて言っただじゃん！」

由夏は俗にいうアニオタというやつだ。

由夏のこの趣味は俺しか知らない。

「飯田さん、新谷くん。おっはよー!!」

後ろからやたらとでかい声がした。

「眞理ちゃんっ！びっくりした・・・おはよ。」

コイツは笹倉眞理。

天然というか、馬鹿というか。
そんなやつ。

「飯田さんと新谷くんがあんまりにも楽しそうだからつい話しかけたくなっちゃってえ」

「こらっ眞理!!」

「うわっ駿くんっ!!」

「ラブラブな2人を邪魔しちゃダメだって言ったる!!」

こいつは二条駿。

眞理の恋人兼、僕の親友。

「よっ駿。」

「すずちゃん。ごめんなあ俺の眞理がうるさくて。あっ飯田さんもごめんなっ。」

「全然大丈夫。眞理ちゃんはいいい子だし。ねー？」

「飯田さんの優しさに惚れそう!」

「こら眞理。彼氏の前でそういうこと言わないの!」

「ごめんなさい!」

大騒ぎして2人は坂を駆け上がって行った。

「元気だな・・・あの2人は。」

「羨ましいね。」

そっいつて由夏は僕に微笑んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5697s/>

その背中には羽根がある

2011年10月9日00時22分発行